

令和8年第9回青森市教育委員会定例会 会議録

1 開会日時

令和8年9月25日（金） 14時00分

2 閉会日時

令和8年9月25日（金） 14時50分

3 開催場所

青森市教育研修センター 5階 大研修室

4 出席者

・教 育 長	工 藤 裕 司
・教 育 長 職 務 代 理 者	土 岐 志 麻
・委 員	天 内 博 康
・委 員	齋 藤 美 鈴
・委 員	松 浦 淳
・委 員	川 村 仁

5 事務局出席者

・理 事	角 田 毅
・教 育 次 長	後 藤 孝 範
・教 育 次 長	小 山 信 哉
・総 務 課 長	嘉 瀬 慎 一
・文 化 遺 産 課 長	児 玉 大 成
・学 校 給 食 課 長	徳 差 弘 子
・指 導 課 長	築 館 雅 樹

6 会議に付議された案件

(1) 議案

議案第35号 青森市立青嶺のぞみ中学校の就学に関する規則の制定について

(総 務 課)

議案第36号 青森市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

(総 務 課)

(2) 報告

①寄附採納について

(総 務 課)

②令和9年度知事と市町村長の意見交換会の要望について

(文化遺産課、学務課、学校給食課、指導課)

③令和8年度「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」の実施について (指 導 課)

④青の煌めきあおもり国スポ（第80回国民スポーツ大会）における小・中学校の関わりについて (指 導 課)

⑤健康観察アプリ「COCO-Ten」について

(指 導 課)

7 会議録署名委員

- ・齋 藤 美 鈴
- ・松 浦 淳

8 会議の概要

14時00分に教育長が開会を宣言する。会期を1日とし、会議録署名委員を前項7のとおり指名する。

全案件について、全委員異議なく原案のとおり決定し、14時50分に閉会した。

9 会議の状況

(1) 議案

○工藤教育長

本日の審議案件は2件です。

では、議案第35号「青森市立青嶺のぞみ中学校の就学に関する規則の制定について」、事務局から説明をお願いします。

○小山教育次長

はじめに、「附属資料」の提案理由を御覧ください。

令和9年4月1日に開校する「青森市立青嶺のぞみ中学校」について、生徒の入学願書受付を10月1日より開始することから、就学における手続や、入学願書等の様式等を制定するため、提案するものであります。

次に、主な制定内容ですが、第2条では就学に関して、青嶺のぞみ中学校に入学できる者は、本市、または本市と協定を締結している県内の他の市町村に住所を有する学齢期を経過した者で、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した者、不登校などの事情により、十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した者、本国又は日本において、十分に義務教育を受けられなかった外国籍の者と規定しております。

また、第3条において、他の青森市立中学校に在籍中の、いわゆる不登校生徒の入級については、通常の入学とは異なる扱いになることから、別に定める旨を規定しております。

第7条では入学時期に関して、原則として4月1日とし、場合によっては10月1日からの後期入学を認めるものと規定しております。

第8条では修業年限に関して、原則として3年とし、入学は第1学年からとする、ただし、場合によっては第2学年、または第3学年からの入学を認める、原則として6年を上限に生徒の在籍を認めることができると規定しております。

施行期日につきましては、令和8年10月1日としております。

○工藤教育長

ただいまの事務局の説明に、御意見・御質問等はありませんか。

～ なし ～

それでは、議案第35号は原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

～ 異議なし ～

御異議がないようですので、議案第35号につきましては原案のとおり決定することとします。

○工藤教育長

次に、議案第36号「青森市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について」、事務局から説明をお願いします。

○小山教育次長

はじめに、提案理由となりますが、「青森市立青嶺のぞみ中学校」の教育課程について、夜間中学の特性を踏まえた特別な編成を可能とするほか、校長が前年度のうちに行うことを規定している事項について、校長就任前の新設校における特例を設けるために所要の改正を行うものであります。

次に、改正内容について、御説明いたします。

1つ目といたしまして、第5条第1項において、学校の教育課程を学習指導要領の基準により編成する旨を規定しておりますが、学校教育法施行規則の規定に基づき、夜間中学である「青嶺のぞみ中学校」の生徒の状況に応じた特別の教育課程を編成できるよう、新たに規定を設けることといたします。

2つ目といたしまして、校長が前年度にあらかじめ教育委員会に対し届出や承認等を求めることとしている事項について、次年度に新設されることにより校長が未就任である学校においても、これらが円滑に行えるよう、新たに特例を設けることといたします。

施行期日につきましては、令和8年10月1日としております。

○工藤教育長

ただいまの事務局の説明に、御意見・御質問等はありませんか。

～ なし ～

それでは、議案第36号は原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

～ 異議なし ～

御異議がないようですので、議案第36号につきましては原案のとおり決定することとします。

(2) 報告

○工藤教育長

本日の報告案件は5件です。

報告1「寄附採納について」、事務局から説明をお願いします。

○嘉瀬総務課長

令和8年8月に各校から報告がありました寄附採納について、御報告申し上げます。

お手元の「寄附採納一覧（令和8年8月1日～8月31日）」を御覧ください。

はじめに、小学校における寄附採納といたしまして、No.1の長島小学校に対し、「長島小学校PTA おやじの会」様から、教室用カーテンの寄贈申出があり受領いたしました。

このほか、2校に対し児童図書や図書カードの寄贈申出があり受領いたしました。

次に、中学校における寄附採納といたしまして、No.1の「クツコハお届けプロジェクト実行委員会」様から市内全中学校に対し、図書「靴を磨けば心が晴れる」の寄贈申出があり受領いたしました。

詳細につきましては、資料記載のとおりであります。

このたびの御厚意に対し、心から感謝いたしますとともに、有効に活用させていただくことと

しております。

○工藤教育長

報告2「令和9年度知事と市町村長の意見交換会の要望について」、事務局から説明をお願いします。

○徳差学校給食課長

令和9年度知事と市町村長の意見交換会の要望について御説明申し上げます。

市では、市勢発展のために必要な施策・事業のうち、緊急性及び重要性が高く、国・県等の協力により早期実現・促進が図られる事項について、毎年度、青森県へ要望しております。

東青5市町村が連携し、県に対して重点事業要望を行うため取りまとめている「青森圏域重点事業に関する要望書」について、今般、その項目・内容等がまとまりましたので、御報告いたします。

要望項目につきましては、お手元の配付資料「令和9年度青森圏域重点事業に関する要望書(抜粋)」の1ページを御覧ください。

こちらは、青森圏域全体における重点要望項目として整理された35項目です。本市からはNo. 1からNo. 25までの25項目を要望することとしておりますが、このうち、教育委員会からは、

No. 8「子育て支援について」

No. 10「少人数学級編制の推進について」

No. 11「スクールカウンセラー派遣の拡充について」

No. 12「世界遺産を含む史跡の活用に向けた支援について」

の4項目を要望することとなっております。

それでは、教育委員会が所管する4項目の要望内容について御説明申し上げます。

初めに、資料の3ページを御覧ください。「子育て支援について」御説明いたします。

本市においては、令和4年10月から実施した市立小中学校における学校給食費の全額公費負担について、米価等給食材料費高騰へ対応するため、給食1食当たりの単価を増額し、令和8年度も引き続き実施したところであります。

しかしながら、子育て支援策を各地方自治体で実施していることにより、住む地域による実施の有無や助成の対象となる年齢や所得制限の有無、また各自治体の財政力等に応じて、こども・子育て支援施策に地域間格差が生じている現状となっております。

少子化対策につながる取組は、国の責任と財源を明確にしたうえで、全国一律で行うべき包括的な仕組みづくりなど国策として必要な措置を講じるべきものであると考えます。

このことから、「学校給食費の抜本的な負担軽減について、早期に中学校給食費をその対象に加えることを求めるとともに、全国共通の安定した制度を構築し、物価高騰等の社会情勢の変化を踏まえ、既存の小中学校給食費を含めた適切な基準単価の設定による各自治体の財政負担軽減についての国への働きかけ」について要望するものであります。

○築館指導課長

次に、資料の4ページを御覧ください。「少人数学級編制の推進について」御説明いたします。

現在、教職員が子どもと向き合う時間をより多く確保し、子どもたち一人一人に対してきめ細かな学習指導・生徒指導を行うなど、児童生徒の教育環境の向上が求められておりますが、一方で公立小・中学校においては、教育ニーズの多様化や学習指導要領の改訂などへの適切な対応が求められております。

子どもたち一人一人へのきめ細かな学習指導・生徒指導による教育環境の向上は、小・中学校全学年共通の課題であります。少人数学級編制の推進は、知識の定着を含めた確かな学力の向上対策、小・中学校の指導内容・指導方法の違いや人間関係の悩みなどに起因する中学校での不登校者数増加などに対応するために有効な手段であると考えております。

また、教職員が子どもと向き合う時間をより多く確保するためには、小・中学校全学年における少人数学級編制の推進のみならず、学級数増に伴う授業時数の増加等に対応した教職員の配置が必要であると認識しております。

このことから、「青森県における少人数学級編制に伴う授業時数の増加等に対応するための少人数学級編制後の学級数による小・中学校教職員配置基準での教職員の配置及び未配置状況の改善」について要望するものであります。

次に、資料の5ページを御覧ください。「スクールカウンセラー派遣の拡充について」御説明いたします。

本市におきましては、不登校児童生徒数が減少傾向にあるものの、不登校は喫緊の課題となっております。また、学校復帰後も、児童生徒は様々な不安を抱えており、継続的な教育相談を行っていく必要があると考えております。

さらに、児童生徒の中には、友人関係をめぐる問題や学業不振、家庭に係る状況などの様々な悩みを抱えており、自傷行為、希死念慮等を抱える児童生徒が増加傾向にあります。

このような児童生徒のSOSを早急に察知し、家庭も含めた心理的な支援、教育相談体制の充実を図ることが極めて重要であると考えております。

令和7年度は、市内全小中学校に19名のスクールカウンセラーが派遣され、派遣Bと派遣Cの年間派遣時間数は増加したものの、前述の学校が抱える課題の解決に向けたスクールカウンセラーとの面談や連携の需要は増加傾向にあり、年間派遣時間数内で児童生徒や保護者の相談に十分対応できない状況にあります。

同一のスクールカウンセラーが小学校段階から計画的・継続的に教育相談活動等に当たることが、児童生徒、教職員、保護者のいずれの立場からも相談しやすい体制づくりに貢献するものであると考えております。

このことから、
一つに、「スクールカウンセラーの増員及び1校当たりの派遣時間数の増加」
二つに、「同一中学校区内の小・中学校に、同一スクールカウンセラーを派遣できる体制の構築」
について要望するものであります。

○児玉文化遺産課長

次に、資料の6ページを御覧ください。

本市には、国内最大級の縄文遺跡である三内丸山遺跡をはじめ、小牧野遺跡、高屋敷館遺跡、浪岡城跡といった複数の国史跡が所在しており、このような歴史的に重要な遺跡は、人類共通の貴重な宝として未来に残すべき文化遺産であるとともに、魅力ある観光資源としての価値を有するものであります。

本市では、令和３年７月に世界遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である小牧野遺跡の更なる周知や来訪者増加に向けて、小牧野遺跡ＰＲキャラクター「こまっくーイラストコンテスト作品展」や「こまきの縄文まつり」などのＰＲ、イベント等を実施しているところであり、今後も継続して取り組むこととしております。

このことから、「各史跡の誘客促進、認知度向上に繋がる積極的な宣伝や活用に向けた連携の強化及び助言」について要望するものであります。

○工藤教育長

報告３『令和８年度「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」の実施について』、事務局から説明をお願いします。

○築館指導課長

趣旨といたしましては、釜石市への派遣生徒による体験報告や代表生徒の感想交流を通して、参加者が過去に起こった悲惨な出来事や被災した人々の思いを実感することで、命の尊さについて改めて考えるとともに、代表生徒が自校の生徒に平和と防災の大切さを伝える契機とすること、としております。

実施に当たっては、令和８年１０月９日（金）１４時から、青森市立佃中学校体育館を会場として行います。

参加者につきましては、佃中学校全校生徒３７０名のほか、釜石市への派遣生徒、市内中学校代表生徒、佃中学校区学校運営協議会委員や町会長等とし、会場での参加が約５１６名、オンラインによる参加が佃小学校及び浜館小学校の６年生児童計１１８名、合わせて約６３４名を予定しています。

主な内容につきましては、市長によるあいさつ、釜石市への派遣生徒による体験報告、平和・防災学習事業修了証書の贈呈、代表生徒による感想交流、参加生徒による平和宣言、合唱、教育長による講評を行う予定となっております。

委員の皆様におかれましては、是非、会場に足を運んでいただき、生徒による体験報告や感想交流の様子を御覧になっていただきたいと思います。

○工藤教育長

報告４「青の煌めきあおもり国スポ（第８０回国民スポーツ大会）における小・中学校の関わりについて」、事務局から説明をお願いします。

○築館指導課長

「青の煌めきあおもり国スポ」は、昭和５２年の第３２回国民体育大会「あすなろ国体」以来、４９年ぶりとなる令和８年に青森県で開催される第８０回国民スポーツ大会であり、本市においても１８の正式競技が開催されることとなっており、市内小・中学校の児童生徒が観戦の他、様々な形で今大会に携わっています。

大会期間は、会期前Ⅰが令和８年９月３日から９月１３日まで、会期前Ⅱが１０月２日から１０月９日まで、本会期が１０月１０日から１０月２０日までとなっております。

「１ 総合開会式・総合閉会式参加」ですが、総合開会式は、令和８年１０月１０日に、マエダアリーナで行われます。

参加校及び参加人数につきましては、南中学校の9名をはじめ、計6校から59名が参加することとなっております。開会式参加の生徒は、令和8年度の東北中学校体育大会出場選手から選抜しております。

総合開会式は、令和8年10月20日にマエダアリーナで行われます。

参加校及び参加人数につきましては、東中学校、原別小学校をはじめ、計7校から合わせて664名が参加することとなっており、造道小学校及び小柳小学校の6年生につきましては、オープニングセレモニーのダンスNE・BU・TAに参加することとなっております。

次に「2 学校観戦」ですが、本市で開催される11競技に、
市内全小学校の5・6年生 3,786名、引率者 260名、計 4,046名
市内全中学校の1・2年生 3,822名、引率者 270名、計 4,092名
合計で、8,138名が観戦することとなっております。

観戦の具体については、配付資料「別紙1及び別紙2 青の煌めきあおもり国スポ学校観戦一覧」を御覧ください。

すでに、水泳のアーティスティックスイミングやハンドボール、水球の観戦が終了しており、観戦した学校の中には、自校で作成したうちわを持って応援したり、応援チャントを送ったり、競技を大いに盛り上げながら、観戦を楽しんでいる姿が見られています。

「3 競技補助員として参加」についてですが、
軟式野球競技に浪打中学校をはじめ、計5校から36名
水泳の競泳競技に佃中学校をはじめ、計10校から55名
バレーボール競技に沖館中学校をはじめ、計5校から57名
合計で、延べ20校から358名が競技補助員として参加することとなっております。

「4 選手団として参加」についてですが、
陸上競技に浦町中学校の生徒が、少年男子B100mに1名、少年女子B100mに1名、リレーメンバーに1名、選手団スタッフとして教員1名、計4名
水泳の競泳競技に、浦町中学校の生徒が、少年男子B100mバタフライに1名、戸山中学校の生徒が、少年女子B100m背泳ぎに1名、計2名
テニス競技の選手団スタッフとして教員1名
合計で7名が参加することとなっております。

続いて、資料右側「5 競技役員として参加」についてですが、県内各市町村で開催される24競技に、120名の教職員が参加することとなっております。

「6 参加者の出欠、公務等の取扱い」についてですが、
総合開会式については、生徒及び教職員は部活動扱い
総合開会式及び学校観戦については、児童生徒は出席扱い、教職員は公務扱い
平日に保護者同伴で観戦する場合については、欠席扱いとしない
とするなど、参加する児童生徒及び教職員の修学や勤務に支障が生じないような対応としております。

「7 国スポ応援活動」についてですが、各県の選手団を歓迎、応援するために、小学校全41校でプランターシールを380枚作成、中学校全19校で応援のぼり旗を47都道府県分作成し、各競技会場に設置、装飾されております。

これまで御説明した、総合開・閉会式や学校観戦、競技補助員などを合わせますと、青森市内小・中学校の児童生徒・教職員、延べ9, 346名が「青の煌めきあおもり国スポ」に関わっています。

最後に資料の裏面を御覧ください。裏面は「学校観戦の様子」を掲載しております。

写真からは、アーティスティックスイミングや水球、ハンドボール競技において、各校の児童生徒が各県選手団に一生懸命声援を送っている様子が見えます。

その中でも、筒井中学校では、オリジナルの横断幕やうちわ、千羽鶴を作成して応援、東陽小学校では、ハンドボール競技において京都府や千葉県選手団へ取材をしたり応援メッセージをプレゼントしたりするなど、特色ある取組を行っていました。

今後多くの学校が、会期前Ⅱ、本会期で開催される競技を観戦することとなっております。

○土岐教育長職務代理者

このような国スポを観戦できる機会は子どもたちにとって非常に有意義なものだと思います。すでに観戦が終わっている子どもたちが、スポーツを目の前で見てどのような気持ちの変化があったかなど、把握していれば教えてください。また、国スポというものがどういう歴史があるのか、どういうものなのかということを事前に学習するような機会があったのでしょうか。

○築館指導課長

まず、子どもたちの感想として、目の前でアスリートが競技されることで迫力があったということと、「自分もこの競技をやりたい」という思いを持つ子どももいました。また、選手にインタビューする機会があった際は、「どのように健康管理に気を付けているのか」という質問に対し、「野菜もお肉もバランスよく食べて健康に気を付けているよ」という話を聞いて、「自分も野菜嫌いを克服しなければならないな」と思う子どももいるなど、さまざまです。

事前学習につきましては、観戦する競技の内容や、参加する都道府県について学習を行っていると考えております。

○川村委員

「国スポ応援活動」についてですが、このプランターシールや応援のぼり旗のデザインは、子どもたちが考えたということでしょうか。また、これらは競技会場に設置してあるのでしょうか。

○築館指導課長

プランターシールにつきましては、決められた枠の中に小学生が応援メッセージや絵などを描いており、競技会場に設置しているプランターに貼られております。

のぼり旗につきましては、中学生が学校ごとに、それぞれ担当する都道府県の特徴を表すものなどをあしらってデザインしたものでございます。こちらも競技会場に設置しております。

○工藤教育長

報告5『健康観察アプリ「COCO-Ten」について』、事務局から説明をお願いします。

○築館指導課長

今年度より全小・中学校で活用を始めた健康観察アプリ「COCO-Ten」について、御報告申し上げます。

お手元の配布資料「1 導入の趣旨」について御覧ください。

本市においては、令和6年度から2年連続不登校児童生徒が減少し、不登校がいない学校も相当数に上っております。

このことから、新たな不登校を生まない取組の充実が必要不可欠であると考え、1人1台端末を有効活用し児童生徒の声に出せないSOSを受け止め組織的に対応する体制として、健康観察アプリを開発したものであり、今年度4月より各小・中学校で活用しております。

次に「2 健康観察アプリ『COCO-Ten』」を御覧ください。

(1) 健康観察アプリの概要ですが、児童生徒が教職員に心の状態を「晴れ・曇り・雷雨」の3つの天気マークで伝える機能のほか、朝食の有無や体の調子を伝える機能、必要に応じて、児童生徒から教職員へメッセージを送る機能を搭載しています。

各小・中学校では、自校の実態に応じて児童生徒が登校前や登校後の時間に回答し、全教職員がその結果を端末上で瞬時に確認し指導に役立てております。

(2) 児童生徒のSOSへの対応については、入力結果を組織的に把握し、児童生徒から、

○「雷雨マーク」が送信された場合

○「曇りマーク」が継続して送信された場合

○気になるコメントをしている場合

をSOSとして捉え、その日のうちに教育相談を実施し、児童生徒が帰宅するまでの間に、改善できるよう対応しています。

また、相談内容に重大性がある場合や、特別な支援を必要としている場合などについては、関係する教員や管理職と情報共有を行うとともに、必要に応じてSOS会議にて協議し、組織的に対応することとしております。

(3) 健康観察アプリ「COCO-Ten」制作・開発についてです。本アプリは、市内小・中学校のICTに堪能な教員と教育委員会の指導主事で構成される青森市ICTイノベーションチームが、教職員の負担軽減を目指して独自に制作・開発したものであり、今年1月から3月までの試行期間を経て、今年4月から各小・中学校で活用しています。なお、名称については児童生徒の心の状態を天気で表すという意味で「COCO-Ten (ココテン)」と名付けました。

次に「3 活用の成果」を御覧ください。

各学校からは、

○学年主任、養護教諭、管理職等、複数人で生徒の心の状態を確認できることから、「雷雨」のサインを出した生徒に、その日のうちに対応できるようになった

○気持ちが直感的に表現できることから、子どもの心理的なハードルが下がりSOSを出しやすい

○これまで主観で判断していたものが、客観性のあるタイムリーなデータとして、SOS会議に活用できる

○子供の問題を迅速に解決できることから、教職員の負担軽減になるなどの報告を受けております。

事務局としても、健康観察アプリ「COCO-Ten」は、迅速性・客観性に優れ、児童生徒の諸問題の早期発見・未然防止、重大化の防止に効果的であり、教職員の負担軽減につながるものと考えております。

最後に「4 今後の取組」を御覧下さい。

事務局では健康観察アプリ「COCO-Ten」を児童生徒一人一人の健康観察のほかに、健康観察一覧を用いて、「晴れ」が多い日「雷雨」や「曇り」が多い日などの傾向を把握することで、より多くの児童生徒が健康的に過ごせるよう、また、それに伴い教員の負担軽減が図られるよう、年間計画の作成や教育活動の在り方など学校運営等に活用してまいります。

○土岐教育長職務代理者

新たな不登校を生まない予防的な取組ということで非常に素晴らしい取組だと感じます。天気を用いた体調チェックは低学年でも分かりやすく、子どもたちにも取り入れやすいものだと思います。この入力データについて、担任のほか、どなたが必ず確認する仕組みになっているのか教えてください。

また、確認する側の表示方法についても、例えば「雷雨」であれば赤色で目立つように表示させたり、学級内の「雷雨」の人数がひと目で把握できるようにしたりするなど、工夫を検討していただければと思います。

○築館指導課長

全校児童生徒の心身の状態を把握する立場として養護教諭が必ず確認しているほか、管理職である教頭も確認を行っております。

表示方法につきましては貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。児童生徒のSOSを見逃さないよう、より識別しやすい表示形態への改善を進めてまいります。

○川村委員

大変素晴らしい取組だと考えます。運用開始から半年が経過し、本格的な評価には1年程度の運用期間が必要かと思いますが、既に活用成果が表れているとのこと。

児童生徒の心のケアとしては、これまでも「ゆるスタ」や「ラーケーション」によりゆとりを持たせ、不登校対策につなげる取組を進めてこられた経緯があります。「COCO-Ten」の天気データとの相関や連動を図り、有機的な取組として展開していただきたいと思います。

○築館指導課長

今年度1年間運用したうえで成果と課題をしっかりと整理・検証し、各学校の教育活動や教育委員会の施策との相関につきましても、データと照らし合わせながら有効活用を図ってまいります。

○松浦委員

外部委託ではなく、市内小・中学校のICTに堪能な先生と教育委員会の指導主事で独自に開発されたということで、現場のニーズに応じた柔軟な見直しや改善が可能である点が強みだと感じます。ぜひ運用しながら、より良いシステムへ高めていただきたいと思います。そのうえで、2点御要望いたします。1点目は、機能を拡張しすぎて入力作業が複雑化しないよう、

常に入力のしやすさを考慮していただきたい点です。2点目は、土岐委員からのご質問にもありました情報把握の体制についてです。入力内容が通知される仕組みを導入する場合、教職員のメンタルヘルス面を考慮し、通知されるタイミングや時間帯などを適切にコントロールしていく必要があります。児童生徒への分かりやすさと教職員の負担軽減の両面を重視し、今後のブラッシュアップを図っていただきたいと思います。

○築館指導課長

機能拡充にあたりまして、児童生徒の使いやすさを最優先に考えてまいります。また、通知機能につきましては時間設定が可能と考えられますので、教職員の負担軽減にも十分に配慮したうえで改善を進めてまいります。

○天内委員

頭痛や腹痛を報告する機能も備わっていますが、例えば「曇り」の判定と頭痛・腹痛との関連性についての分析は行われるのでしょうか。また、実際の天候の変化により頭痛等を訴える児童生徒もいるかと思いますが、気象データとの関連についても分析をお考えでしょうか。

○築館指導課長

体調不良を抱える児童生徒から「曇り」や「雷雨」の入力がなされているとの報告は受けております。現時点で実際の天候との関連性に関する詳細な報告はありませんが、少なからず影響している部分もあると考えられますので、今後蓄積されるデータを確認・検証してまいりたいと考えております。

(3) その他

○工藤教育長

その他、本日の案件以外に委員の皆様から何かありませんか。

～ なし ～

事務局から何かありませんか。

○児玉文化遺産課長

令和8年9月26日（土）、27日（日）青森市森林博物館にて、「りんご西洋館」というイベントを開催します。りんごをモチーフにしたアクセサリや食べ物のお店が多数出店します。

次に、令和8年10月25日（日）小牧野遺跡にて、「こまきの縄文アカデミア5」を開催します。遺跡内にはクマ対策用の電気柵を設置しておりますので、安心して楽しんでいただけるものと考えております。内容につきましては、考古学のお仕事体験や、フライングディスクゲームなどを楽しんでいただくほか、ランチタイムにはサンドイッチを提供いたします。最大8組、32人以内の範囲で参加者を募集しているところです。

(4) 閉会

○工藤教育長

本日の案件は全て終了しました。以上をもちまして、令和8年第9回青森市教育委員会定例会を終了します。

令和8年9月25日開催の第9回青森市教育委員会定例会の会議録を作成した。

令和8年9月30日

書 記 成 田 潤一郎

上記のとおり相違ないことを認め署名する。

令和8年9月30日

署名委員 齋 藤 美 鈴

署名委員 松 浦 淳